

# 農民と都市住民を

# むすぶ「共同購入」の営み

ルポライター  
滝川 康治



輸入自由化や担い手不足など、きびしさばかりが強調される本道農業。その現場で何が起きているのか。さまざまな農民群像と、生産者と結びつく都市生活者の提携をみる。



江部乙地区田植えの体験実習

## 地域ぐるみで米の産直

田んぼに入るのに素足や靴下姿、黒いゴミ袋を靴代わりにした人たち……。こんな、ちょっと風変わりな田植え姿が、北空知の米どころ・滝川市江部乙地区に現れた。

5月晴れの空の下、慣れない手つき

間提携の覚書を交わしたのは88年夏にさかのぼる。

230トンから始まった産直米は、900トン（今年の目標量）にまで伸びて、江部乙全体の生産量の1割ほど。「さらさら3977%」、「ゆきひかり」30%の割合でブレンドしている。農家にとって、生活クラブは欠かせない存在になった。

## 信頼関係10年

「初めは、農薬を使われるのは嫌だし、カメムシにやられた黒い斑点のある米も気味が悪い、という反応もあった。今の等級制度では（斑点があると検査がクリアしないことを説明して、理解してもらいましたけど）。最近はお互いに努力しよう、との共通理解に達してきたと思いますよ」

産直の窓口を務めてきた山口忠青年部長がこう話す。

「生産者の苦労も分かるし、モノ／＼じやない形で農産物を見られるようになった。水田が環境保全に役立っていることや、北海道の米の大切さにも目を



生産者と餅つき（生活クラブ主催「生き活きまつり」＝札幌市）

向けるようになりましなね」

と言うのは、生活クラブの米部門を担当する上野千賀子さん。学校を休ませて、子どもと一緒に訪れた人もいとくか。熱心が伝わって来る。

これまでは部員の水田だけで供給してきたが、賄いきれなくなり、今年から全地区に広げた。

「直接交流するのは、農家の意識を変える有効な方法です。生活クラブには実態に合わせて取り組む姿勢があったのが幸いしました。さらさら3977は反収が少なく、生協に高く買ってもらえ

で田植えに挑戦するのは、バス2台に分乗して札幌から駆けつけた、生活クラブ生協（杉山さかえ理事長）の組合員とその子どもたち90人ほど。農協青年部員たちのアドバイスを受けながら、和やかな作業風景が広がる。

生活クラブは、店舗を持たない独自の生協運営で知られる。J A えおつ

（大川平吉組合長）から米を共同購入しており、この日は体験田での実習に取り組んだのである。

昼休みには、農協側から地物のアスパラの塩煮とリンゴジュースの差し入れがあり、家庭で簡単にできるパケツを使った稲づくりの講習も行われた。青年部員が栽培方法を説明すると、け

るわけじゃないんですが、今後、米の流通が変化せざるを得ないなかで、生き残り策として期待感があります」

大川組合長は、こう言っ息の長い提携の大切さを強調する。

順風満帆の歩みのように映るが、ごくしくした時期もあったらしい。

「やっと今年から、生活クラブ仕様で農薬使用などの自主基準値に基づいて作ってもらうようになりました。一般と変わらない米を食べる努力をするにも限界がある——と、強く言ったこともある。何度も足を運んで、本音で話をするのが大事なんです」

と杉山理事長が振り返る。食品の安全性を求めるあまり、農家側に難題をぶつける拙速さを避けたことが、地域ぐるみの産直事業を軌道に乗せていく原動力になったようだ。

生活クラブ北海道は82年春、約1500人の組合員によって産声をあげた。隣近所8世帯ほどで班をつくり、月1回の予約によって「消費材」と名づけた品物を共同購入する。現在の組合員数は、札幌市内を中心に約1万2500

っこう細かい質問が飛び出す。秋には現地へ1泊して、稲刈りや農家との交流会もやっている。

「生活クラブは、江部乙農協から米の購入量を増やす」「農協は、低農薬有機農法など、安全で素性の確かな米づくりを追求する」——北海道農業を守ろうとの共通認識で、両者が協同組合

0人。原発や環境問題への取り組みでもよく知られる。

道産品では、低温殺菌の牛乳や卵、豚肉、野菜類、ハム、みそ、醤油、コンブなどの産直を行い、加工食品や日用品などは、全国14単協でつくる生活クラブ連合会（組合員約22万人）から供給を受けている。

農畜産物の取り組みでは、「消費者エゴを出さない。食の安全性は追求するが、生産者と話し合うプロセスを大切に」がモットー。共同購入を通じて、農業のあり方を変えていく生協運動を目指している。

## もつとも長い卵の提携

消費者グループの「たまごの会」の会員たちが中心になって生協づくりに奔走した経緯があるだけに、卵の産直が最も長い。

現在は、札幌などの5つの養鶏場が提携している。

その一つ、15年来の付き合いという当別町の辻養鶏場を訪れてみた。代表の辻伸行さんは、水田農家の息

